

日本語教育に関する全学調査 教員アンケート結果報告

名古屋大学留学生センターでは、これまで留学生・研究員など毎年延べ 1100 名を対象に 6 つの日本語コースを運営してきました。1993 年センター開設以来日本語学習者の数は増加しつづけ、その学習目的や条件も多様化してきています。また、大学法人化の流れのなかで、これまでの方向を見直す必要も生じてきました。

そこで、全学の先生方を対象に、留学生の日本語教育に関するアンケートを実施し、今後の改善に先生方のご意見を生かしていきたいと考えました。2004 年 5 月から 6 月にかけてアンケートを各部局の事務のご協力をいただき、回収いたしました。多くの方々に、たいへんお世話になりました。本当にありがとうございました。御礼を申し上げますとともに、ここにその結果をご報告いたします。

1. 対象者及び回収率

名古屋大学に所属する助手以上の教員約 2000 名
 回答者数：391 名（回収率：20%）

2. 回答して下さった先生方のプロフィール

表 1 . 所属研究科

	所属研究科	人数
1	文学研究科	4
2	教育学研究科	9
3	法学研究科	5
4	経済学研究科	7
5	理学研究科	25
6	医学研究科	115
7	工学研究科	57
8	農学研究科	29
9	国際開発	10
10	多元数理研究科	7
11	国際言文研究科	4
12	環境学研究科	46
13	情報科学研究科	20
14	総合保健体育センター	9
15	エコトピア	24
16	その他	16
17	無記入	4
	合計	391

表 2 . 身分

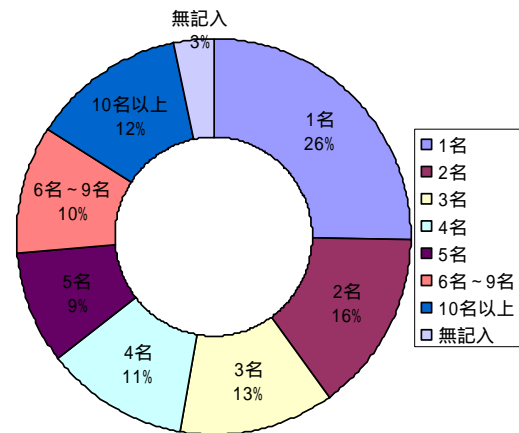
1	教授	164
2	助教授	113
3	講師	29
4	その他	75
	無記入	10
	合計	391

2. 留学生の受け入れ経験

あり： 297名（76%） なし：94名（24%）

表3. 受け入れ人数

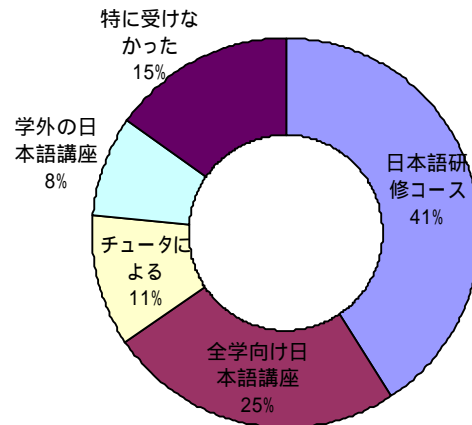
受け入れ留学生数	教員数
1名	75
2名	44
3名	38
4名	34
5名	28
6名～9名	31
10名以上	37
無記入	10



4. 受け入れた留学生の日本語学習

表4. 留学生の日本語学習（複数回答可）

1	日本語研修コース	190
2	全学向け日本語講座	115
3	チュータによる	50
4	学外の日本語講座	39
5	特に受けなかった	71



その他

母国で日本語を学習してきた 19名
 日本語学校で研修後受け入れ 2名
 研究室で交流を通して 3名
 わからない 4名

5. 留学生が日本語学習をする上での困難

1) 日本語コースの授業時間と専門研究の時間調整がうまくいかない 53名（複数回答可）

日本語研修コース留学生担当教員 41名

自由記述（一部）:

- ・セミナーと日本語の授業が重なった。
- ・授業と重なった場合は日本語研修を優先させている。
- ・初期には、研究に十分な時間が取れなかったと思われる。
- ・専門研究は英語の為、日本語学習に費やす時間は、学位取得を遅らせることになるかと思いません。つまり学生にとってかなりのストレスで、日本語授業の後にも、相当の勉強が必要です。専門研究を行う為に留学しているのに、日本語学習のストレスは、かわいそうと思いました。
- ・大学院のスケジュールとバッティングすることが多く、全学的なカリキュラム検討が必要と感じていました。

- ・キャンパスが東山と離れているため。
- ・日本語コースの時間が多く実験研究時間に支障
- ・日本語コースの授業の負担が大きい、研究室のゼミに参加できない。
- ・参加させたい研究会と重なることが多くあった。

全学向け日本語講座受講生担当教員 26名

自由記述(一部):

- ・セミナーの時間と授業時間が重なった。
- ・医学部が鶴舞地区にあり、距離のため実験との両立が難しかった。
- ・午前専門、午後日本語コースが適応しやすい。
- ・良い解決策はないと思う
- ・日本語学習中心になった。

その他(日本語の授業は受けなかったなど)3名

自由記述(一部):

- ・学生と異なって、勤務時間があるため、授業の時間を調整しにくい。
- ・時々ゼミの時間とバッティングする
- ・夕方からの授業が多く、どうしても研究が中断されることが多かった。

2)日本語クラスのレベルが合わない 24名

表5.理由

1	レベルが低すぎる・やさしすぎる	3
2	レベルが高すぎる・難しすぎる	2
3	学習者のニーズとクラスが合わない	3
4	個人差がある・個人差に対応していない	4
5	学習者の習得が不十分	5
6	中国の学生には漢字学習は不要	2
6	その他	5
	計	24

3)その他 26名

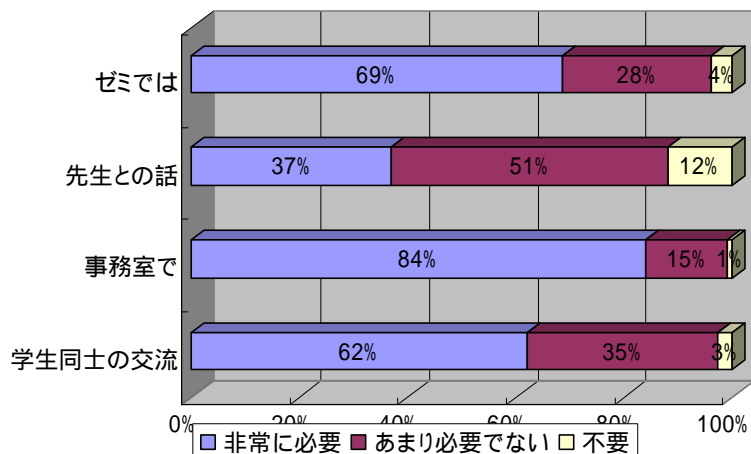
表6.その他の問題

1	学習者の習得が不十分(個人差あり)	9
2	鶴舞-東山の移動に時間がかかる	4
3	読み書きをもっとやってほしい	2
4	漢字圏の学生と非漢字圏ではちがう	2
6	時間数が足りなかった	1
7	英語も使えるようにしてほしい。	1
8	学生が日本語学習より研究活動を優先	1
9	6ヶ月コースのレベル差・クラス分けの基準不明	1
10	その他	5
	計	26

6. 教師が判断する日本語必要度（3段階評定）

表5. 日本語の必要性

場面	非常に必要	あまり必要でない	まったく不要
ゼミでは	248	100	14
先生との個人的な話では	136	188	44
事務室などでは	300	54	3
学生同士の交流では	222	126	10



その他 表6. 日本語が必要なほかの場面

場面	人数
日常生活(住宅・病院・役所・銀行など)	49
学内の研究活動(患者・業者との接触など)	23
学会、研究会での発表や討論	18
講義	5
全般	5
日本の文化を知る	4
論文執筆のため	3
英語ができない場合は必要	3
災害時、非常時、警察、消防、救急	1
アルバイト	1
本をよむとき	1

6. 留学生センターの日本語教育に対する要望（自由記述）

教員との連絡

1. センターの受講時の成績等を指導教官にフィードバックすると良いと思います。
2. どの授業をどのくらい受けると、これくらいできる(目標)があると、教官からすすめられる。個別相談の場。
3. 本学程度では本来は本人の責任で行われるべきこと

日本人学生等の活用

- 4 . (既に制度としてあるかも知れませんが) 日本人学生の活用。(相互作用を期待。ただし、英語圏以外の留学生に対するケアが難しいかも。)
- 5 . 少ないスタッフでよくやっただいています。むしろ日本人の支援ボランティアを育てることができないだろうか。国際交流経験にもつながる。
- 6 . もうしておられると思いますが、様々な講義の出張サービス(各学部から話題提供に来てもらう) 付属高・中との交流。

レベル・内容の多様化

- 7 . 10年経ることなので、今は改善されているとは思いますが、初心者向けのみでなく中級、上級レベルの日本語教育があってもよいのではないかと。
- 8 . その人にレベル合わせたマンツーマンでお願いしたい
- 9 . 日本語1級のレベルでも専門科目での学習や報告(レジュメ作成やレポート作成、ゼミでの所感表明)には全く赤子同然だと嘆いている学生が多い。チューターによるトレーニングが未整備なので今後の課題だと思っていますが、センターでも時事問題のコラムをよんで学術レベルでの意見を交し合うようなコースを設けていただくと、いいかも知れません。
- 10 . 作文を日本語で書く場合の「文章表現」能力を養うコースの充実。
- 11 . 上級学習者がさらに高度の日本語力を身にはけるための講座にも更なる充実を図っていただければ幸いです。
- 12 . 大学の研究では英語でとくに問題ないので、日常会話を重点的に教育して欲しい。
- 13 . 大学らしい日本語教育(専門分野に対応できる)をお願いしたい。
- 14 . 滞在年限、本人の日本に対する理解の希望レベルに依存すると思います。それに合わせたレベルが考えられます。(日常会話レベル・新聞を読むレベル・日本語を書くレベル)
- 15 . ディサテーションのライティングスキル、オーラルコミュニケーションスキル等、研究に役立つリテラシースキルの充実を希望。
- 16 . たいへんよくやって下さっていると思います。難しいとは思いますが、専門で使える(用語は別にして)ゼミでの議論に参加できる、こんなことが少しでも道すじをつけていただければとも思っています。
- 17 . 多様なコースが実施されている現状を資料を見るまで理解していなかった。
- 18 . 話す方はよいのですが、読み書きが問題だと思います。プログラムの充実が望まれます。
- 19 . 話す能力は十分でも、書く能力が不足している学生が多い。したがって、文章を作成できるスキルを高めて欲しい。
- 20 . プレゼンテーションや実生活に必要な役立つ日本語も教えてほしい。
- 21 . 文書体の日本語(要するに文語)の読む力を育むよう教えて欲しい。
- 22 . 文法も力を入れて欲しい。
- 23 . 私の指導学生について言えば、日常生活で使える日本語だけ習得できれば十分と考える。
- 24 . より生活に密着した会話法を教授してほしい。(例えば上記のような項目)

日本語の必要性

- 25 . 医学部にある共同利用施設である動物実験施設では日本語を理解できない留学生には必ず付き

沿いの日本人研究者が特に来るということで施設利用者研究会を免除しているが、やはり単独で研究活動をするのが多く、日本語は非常に必要である。

26. 英語でのコミュニケーションも可能で、仕事も英語でかなりできると思うが、十分な学生生活を送る上では日本語は重要。
27. 現在の日本語教育を厳しく徹底して、1日も早く、日本語で日常生活ができるようになることを希望しています。
28. 今後、様々なレベルの学生が来日すると思われるので引き続きコースを続けて頂きたい。
29. 今後も、留学生とその受け入り研究室が各々の本分に専念出来るよう、御協力をお願いします。
30. 新任のため、受け入れ経験なし。名大以前には多くの外国人研究者を受け入れ、日本語ができるほど仕事の効率は高まることを経験。
31. 大学院入学前に必修としたら。
32. 大変質が高いと留学生が口をそろえて言います。
33. 大変よくやっていると思います。一つだけ、どうしても正規のコースがとれない学生のために、聴講を許可して頂きたいことがたまにあります。
34. 私も外国で学んだ・生活した経験がありますが、生活のサポート（語学面で）までして頂けた時は役に立ちました。実学教育というスタンスも悪くないと思います。
35. 来日直後から、常時初級のクラスに入学できるようにお願いしたい。大学院受験目的で6月または12月に研究生として入学するケースがあるが、これらの学生に日本語の初歩を学ばせる機会がなかった。

学生多様性

36. いつも大変お世話になっていると思います。学生によって日本語がうまくなる人もいればダメな場合もあるようです。うまくなる人は漢字までかなり読めるようになり、学生間でのcommunicationに役立っているようです。できれば会話くらいは全員ができるようにしていただくと助かります。わがままですいません。
37. うちの留学生は日本語の上達が早いから特に現状では問題ないものと思う。
38. 研究者への教育も重要ですのでよろしく。
39. すべての留学生に、日本語を上達させるのは、むずかしいと思います。
40. 種々の条件の留学生に対して、私自身はよく出来たプログラム・カリキュラムだと思っていますが、受講する留学生には種々のニーズが、あり個別対応をどこまで行うべきか等検討を加えて頂ければ幸いです。
41. 非漢字圏の学生が漢字の難しさのために、その後の日本語学習をあきらめてしまうことがある。何とか、漢字がうまく学習できる方法はないか。

検定試験の採用

42. 英検があるように、日本においても日本語能力検定を採用してほしい。
43. 留学生が自分の日本語の水準をセンターとは別の角度から知る意味で日本語能力試験の受験で促進していただけると有難いと思います。（別にAIEJに頼まれたわけではありませんが・・・）

英語による教育システム

44. 漢字圏の国からの留学生には参加しやすいがそれ以外の国の留学生からは、英語による教育システムが不十分であるという苦情がある。

鶴舞キャンパスの問題

45. パスが離れているため、実質的に日本語講座等、よいサービスがあっても受講できない留学生についての対応も検討していただくと助かります。(所属キャンパスに近い日本語講座の紹介、受講料補助、もしくは東山への交通費補助など?)

教員の増員

46. 教員を増やす等、きめ細かい対応が必要

47. 法人化を機に、学外にも日本語教育サービスを有料ではどうでしょうか? 海外には、そのようなサービスで収益をあげている大学もあるようです。もちろん非常勤講師など収入により増員すべきだと思います。

開講時間帯

48. 時間帯、曜日を参考して日本語研修コースを開講して下さい。内容はOKです。

49. 多少、時間の融通がきくと助かります。

50. 現在の日本語コースだけでは対応できないケースがあります。週末、早朝、夕方に日本語が学習できるようにして頂きたい。ボランティアでも可。

センター外との連携

51. 近隣の大学と協力して、日本語コースを開講すればセンター教育の負担を軽減できる。

52. 専門学部との連携が必要。/他大学との遠隔授業などの連携及び教員の負担軽減

集中講義について

53. 集中講義に出た外国人研究員(学生ではない)が、集中がきつく、数回でやめてしまいました。実態は把握しておりませんが1事例まで。

54. 集中的特訓コースが欲しい。

55. 集中的に学習するコースを増やすといいのではないか。研修コースは効果大だったようです。

56. 来日初期に集中的にして貰えると有難いです。(本人が最も助かると思います)

精神的サポート

57. 生活や精神衛生のサポートの担当部局との連携、特に配慮頂けるとありがたい。

58. 精神的サポートの窓口を強調してあげてください。知人(留学生)でノイローゼになっても、カウンセリング先がうまく見つからなかった例がありました。

日本文化教育

59. 単に授業、研究のためだけでなく、日本の“文化”を教えるつもりでの日本語教育をお願いしたい。

60. 特にありません。むしろ日本文化や習慣に関わるものを知りたいがります。

- 6 1 . 日本語教育一般についてはたいへん良いときいています。ただ現代の日本文化や芸能についての講座が開かれていないことにはみな不満があると言っています。
- 6 2 . 文化の違い 安全のこと

家族への対応

- 6 3 . 学生家族への日本語教育の充実が必要ではないでしょうか。
- 6 4 . 留学生だけでなく、ポスドクで来日している人の家族も無料で日本語を習える様にしてほしい。奥さんや子供が日本語を習う場所がなく、(民間の教室は高すぎて不可能)家族が話せないと、本人も1~2年で祖国に帰ってしまうケースが多い。

その他

- 6 5 . 日本語教育に対する要望ではないのですが、大学に入学する留学生の日本語のレベルの分布などを教えていただくと助かります。
- 6 6 . 当研究室では英語さえ話すことができれば問題ありません。
- 6 7 . 日本語授業には感謝しています。過度の日本語テストは専門研究を行う留学生にはきついと思います。留学生本人の意志を尊重するのもよろしいのかもしれませんが。
- 6 8 . 日本人に日本語教育が必要！いわゆる「国語」ではない、日本語のスキル話し方・書き方
- 6 9 . 法科大学院のみ担当なので、現在のところ留学生の問題は生じていないが、将来受け入れることがあれば、日本語は必要不可欠である。
- 7 0 . 研究でも生活でも日本語か英語のどちらかが重要ですね。
- 7 1 . 日本語が理解できない時には、遠慮なく質問することを伝えていただきたい。留学生の性質にもよるでしょうが、十分に意志が通わない場合に、黙っていることは、学生生活では良くないことを十分伝えてほしい。
- 7 2 . 特にないです。といいますのは、本当に使えるようになるには、十分な時間が必要で、一方博士課程など3年で学位もとるためには、足りない、という外側の環境の方が要
- 7 3 . 日常会話は何とかかなりますが少しこみいると会話のみでは伝わりません。研究専門的となると、無理です。センター教育に求めるのは無理かもしれませんが。肯定しているのか、否定しているのか、質問しているのか、確認しているのか、区別がつくようこちらもできるだけ誤解されにくいよう気をつけていますが。
- 7 4 . 私的な書類(各種奨学金申込みなどを含め)作成のために、教官がかなりの時間をさかなければいけない。
- 7 5 . 名大の場合は、事前に日本語能力の向上を図って入学して来る学生が多く、特に大きな問題は感じていません。
- 7 6 . もっと動作の違いを基に教えるべきである。
- 7 7 . 留学生間の交流状況が、大学としてどの程度把握できているのかを知りたい。
- 7 8 . 先生方の御努力にはいつも頭が下がります。
- 7 9 . 非常にご努力に感謝しております。今後とも日本に憧れ親しむためにも留学生の日本語教育を通してのお世話をお願いいたします。

その他お礼の言葉をたくさんいただきましたが、省略させていただきました。ありがとうございました。